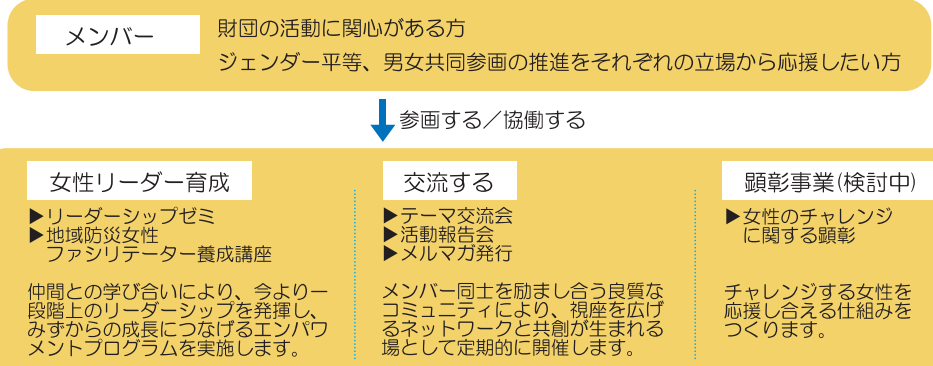




メンバーシップ制度 登録募集中！

事業への参画やアイデアの具現化など、サステナブルでわくわくする未来を私たちと一緒につくっていくメンバーを募集します！

メンバーシップ制度(コミュニティ)



Work support PLUS

ワークサポートプラス

従業員満足度を高め、組織を活性化するために必要なサービスを必要な分だけ

組織・職場の課題 ☑ダイバーシティ推進 ☑ハラスメント防止 ☑コンプライアンス ☑人材育成 ☑各種両立支援	働く人の課題 ☑子育て・介護との両立 ☑人間関係 ☑働き方・キャリア ☑メンタルヘルス	Work support PLUS 社内研修 社外相談窓口 女性活躍推進プロジェクト支援 SDGs推進のプロジェクト支援等	組織活性 人財活性 働きがい ダイバーシティ経営
---	--	--	--

ワークサポートプラスは、従業員の皆さまが健康で安心して働ける環境を整備することで、従業員満足（ES）を高め、離職防止や生産性向上につなげる包括的なサービスです。それぞれの企業のご要望に応じたプランをオーダーメイドで提供します。料金はプラン内容によって異なります。まずはお気軽にお問合せください。



▲2025年度より新たに開始した女性リーダー育成事業「リーダーシップゼミ2025」の様子
(2025年4月 財団サブオフィスにて)



2024年度をふりかえって

(一財)大阪男女いきいき財団
理事兼事務局次長 沢田 薫

2023年に迎えた財団設立30周年の際には、財団への期待として、こんな声がありました。「市民や様々な団体、企業、行政など様々な人が対話や交流できる場を創り、架け橋となしてほしい」「社会的包摂、インクルーシブへのバッシングの風もある中で、中間支援の役割を担い、柔軟な活動を広げてほしい」。

次の10年のステップでジェンダー平等の実現に向けて、こうした声に応えるために、行動する女性リーダーの養成に注力しました。年齢や経験、専門性、価値観は異なるものの、オープンでフラットな関係性の中で、にぎやかで多様性に富むネットワークができコミュニティが形成されていきました。その変化と活動の広がりに、私たちも大きな手応えを感じました。

一方で、地域や職場で女性リーダーが活躍できる環境は、まだまだ整ってはいません。山あり谷あ

りの道のりで、孤軍奮闘している状況がありました。

しかし、女性リーダーを応援しようという多様なステークホルダーが男性も含めておられることも目にしました。個人として様々な工夫や努力ももちろん必要ですが、他者の力を上手に借りる受援力も個々の取組みの進展や成否に大きな影響を及ぼします。その受援力を高めるために多様な市民・リーダー、団体、企業、行政などとのネットワーク、橋を架けるお手伝いのできたらと考えています。

大阪・関西万博のウーマンズパビリオンには、インドの独立運動を指揮したマハトマ・ガンジーの「未来は、今私たちが何を為すかにかかっている」というメッセージが展示されていました。

より良い未来に向けてアクションする女性リーダーたち、そして共に豊かな未来を創ろうと応援する様々な人たちとの架け橋をこれからも築いてまいります。

What's 大阪男女いきいき財団 - Osaka Gender-Equal Community Foundation -

ダイバーシティ(多様性)の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがいきいき暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪)5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

数字で見る2024年

学習機会の提供



623 事業 29,875 人

企業や団体、地域などでの
研修実施回数／受講人数 171 事業 8,183 人
クレオ大阪以外の場所での研修

オンラインでの
学習機会の提供 23 事業 1,207 人
オンラインセミナー、見逃し配信など

相談事業



21,563 人

女性の悩み相談 12,125 人 子育て相談 4,922 人

男性の悩み相談 338 人 SNSでの相談 1,888 人

一時保育関連の事業利用者数



約 13,360 人
保育室開放や一時保育つきの事業での利用者数

地域の関係団体との連携・協働



約 7,530 人
連携・協働事業の参加者数

インターンシップ、職場体験



約 150 人
大阪教育大学、大阪経済大学、市内小中学校、
特別支援学校など

クレオ大阪の年間利用者数



約 673,950 人

クレオ大阪
ホームページの閲覧数

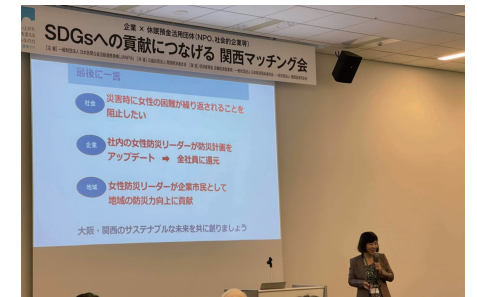
約 599,730 ページ

休眠預金活用事業を契機とした事業展開



当財団では、2023、2024年度にて「地域防災女性ファシリテーター養成講座」を実施し、55人の修了者（女性防災リーダー）を輩出しました。これは、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が行う休眠預金活用事業の一環として実施したもので、全国7カ所で女性防災リーダー育成が行われました。

2025年1月12、13日には、その女性防災リーダーたちが東京に集結し、「ジャパン女性防災リーダーサミット2025」を東京にて開催しました。来賓を含め、のべ320人の参加があり、防災に取組む女性同士の学び合い・交流を深めることができました。



関西マッチング会でのプレゼンの様子

内閣府男女共同参画局長の祝辞のほか、国会議員、自治体首長からもエールが送られ、災害時だけでなく平時の地域づくりから男女共同参画が重要であることを再確認し、熱気あふれる会となりました。

内閣府男女共同参画局とは、2025年度「ぼうさいこくたい2025」（新潟県にて開催）にて共催事業を実施する予定です。また、同局が発行した「能登半島地震対応状況調査報告書」において、「全国の女性リーダーネットワークを活用した支援」の事例として、当財団による女性避難者のためのポーチ作成の取組みが紹介されました。

休眠預金活用事業としては、2024年度にて一旦終了しましたが、2025年度は㈱フェリシモ「フェリシモもっとずっときつと基金」の支援を受け、2025年度も同様の事業を実施できることになりました。これは、JANPIA主催による団体と企業とのマッチングにて、企業34社を対象に本事業の成果発表と継続的な女性防災リーダー養成研修を提案したところ、関心を寄せていただいたことが今回の助成につながりました。

今後も女性防災リーダーたちとともに、誰もが安全・安心に暮らせる地域づくりに向けて、継続的に取り組んでまいります。

事例8
(民間)全国の女性防災リーダーの
ネットワークを活用した支援

「男女共同参画×防災」をテーマにした人材育成研修の修了生たちが、全国の女性防災リーダー団体のネットワークを通じて被災地に入り、避難所づくり等の支援を実施。

- 【ネットワークの活動例】
- 「きめ細やかな女性用品が不足している」とのニーズを聞いた女性団体が、女性の衛生用品等をまとめた専用ポーチ（若い女性とシニア女性向けの2種類）を被災地で配布。
 - 活動に共感した別の団体が、メッセージカードを添えて専用ポーチを100個作成被災地で活動する女性団体へ送付。
 - 女性団体は直接ポーチを渡しながら高齢女性や子育て中の女性等、異なる立場の女性の個別ニーズを把握。



「令和6年度 男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査(概要)」より（発行：内閣府男女共同参画局）

女性専用ポーチをつくった思い

2024年1月1日の能登半島地震発災後の1月14日、16日に、「地域防災女性ファシリテーター養成講座」修了者有志で女性専用ポーチをつくるために集まりました。私たちは皆、「何かしたい」という強い思いに駆られていました。でも、もしこのコミュニティがなかったら、その思いは形にならず、静かに消えてしまっていたかもしれません。だからこそ、今改めて、コミュニティの存在の大きさを強く実感しています。

このつながりが、1期（2023年度講座）、2期（2024年度講座）の修了者が一緒になって災害ボランティア活動というさらなる行動へと自然に広がっていったのだとおもいます。一人では難しいことも、仲間とならできる—その力強さを実感します。

—増田裕子さん（地域防災女性ファシリテーター養成講座 講師兼チューター）

全国最大規模の男女共同参画センターを次の10年へ

大阪市立男女共同参画センター中央館(クレオ大阪中央)などの5施設について、これまでも運営してきましたが、引き続き、2025年4月から10年間の指定管理者として運営します。

この間、多数の方にご利用いただき、学びと出会いや交流の場を提供してきました。かつて、保育室で保育ボランティアと共に遊んでいた幼児が大学生になって来館してくださることもあります。地域に根差したセンターとしてあり続けるという意味や価値を改めて考えると共に、10年間という長期にわたり付託された信頼に応えていかねばと決意を新たにしております。

近年は、感染症の世界的な流行、水害や地震といった自然災害、IT技術の進化による産業構造な

ど、社会はドラスティックな変化を起こしています。一方で、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)も根強くある中で、ジェンダーの視点をあらゆる事業に反映して、誰もが自分らしく生きがいを持って暮らせる社会の実現に向けて、男女共同参画センターの役割も刷新していく必要性もあるのかもしれません。

様々なライフステージにある多様な市民の期待に応えるためには、これまで以上に協働していくという姿勢が欠かせないと考えております。様々なアイデアやスキル、経験のある多様な市民の皆様の手を借りながら、男女共同参画センターという場を盛り立てていければと存じます。男女共同参画をどうぞ共に進めてまいりましょう。

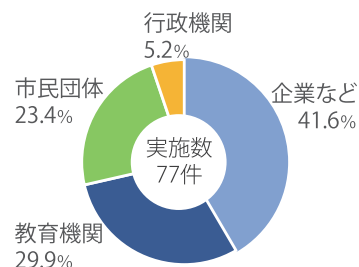
職場・地域等における男女共同参画を推進

2024年度にクレオ大阪または財団事業として企業や団体、地域等に実施した研修の件数は77件で、様々な団体からの依頼がありました。

企業などからの依頼は、ハラスメント防止やメンタルヘルスをテーマにしたものが多くみられました。教育機関からは、デートDVが最も多く、特に中学校からの依頼が多くみられました。市民団体からは、これまでの子育て支援関連に加え、防災をテーマにした依頼も多く、関心の高まりを感じました。

行政機関からは男女共同参画や防災をテーマにした依頼が多く、特に、関西広域連合から防災担当職

員を対象とした研修依頼があり、男女共同参画の視点からの防災・減災について広く啓発を行う機会となりました。



ご依頼元の声

- ・当日までの打ち合わせも丁寧にしていただき、安心して開催することができました。
- ・各スタッフのハラスメントに対する知識や認識にばらつきがある中でも、それぞれが何らかの学びや発見や疑問を得る機会になったと思います。途中のワークは、自分たちでも取り入れることができそうな手法だったので、研修後も実践していきたいです。
- ・日頃関わる教員からでは、なかなか指導しにくい場合もあるので、専門の知識がある方にご指導いただけてよかったです。生徒の理解もより深まり、前向きな声がたくさん聞けました。

全国女性会館協議会「イチオシ事業大賞2024」入賞

「イチオシ事業大賞」は、全国女性会館協議会の会員館(91施設)を対象に、「イチオシ事業」を募集し、会員投票による選ばれる事業大賞です。クレオ大阪子育て館で実施した「プレパパ応援! パパのための出産準備講座」が第3位で受賞しました。

この講座では、家事育児分担をシミュレーションするワークや公共の支援制度を知ることとおして、男性がより主体的に赤ちゃんがいる生活への準備をしていきます。

一般的な出産準備のための両親教室等では、知識習得の本気度は母親主体になることも少なくありません。そこで、男性がより主体的に学ぶ場であり、父親同士の会話から不安なのは自分だけじゃないと気づき、安心して本音が話せる場にもすることを目的に企画したことが評価されました。



大阪府内中小企業初、プラチナえるぼし認定を取得

えるぼし認定は、一般事業主行動計画の策定・届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取組の実施状況が優良である等の一定の要件を満たした場合に認定され、5項目の認定基準のうち満たした数に応じて3段階あります。(2025年2月末日時点 3,382社)。

プラチナえるぼし認定は、「えるぼし」認定を受けた事業主のうち、女性の活躍推進に関する取組の実施状況が特に優良である等の一定の要件を満たした場合に認定されます(2025年2月末日時点 73社)。

当財団は、2021年度のえるぼし認定に加え、

2024年11月6日付でプラチナえるぼしの認定を受けました。大阪府内の中小企業としては初めての認定となります。

引き続き、従業員一人ひとりが仕事と家庭の両面において充実感をもち、いきいきと活躍できる働きやすい職場環境の整備をめざすとともに、大阪・関西における女性活躍の推進に貢献してまいります。



「プラチナえるぼし」認定に寄せて

財団が厚生労働省のプラチナえるぼし認定されたことは、男女共同参画に長年取り組んできた証として意義深く喜ばしい。なぜなら女性活躍推進法では、採用、就業継続、労働時間など働き方、管理職比率、そしてキャリアコースなどの5項目のうち、就業継続と管理職比率について女性活躍比率が「とくに優良」であるときに、はじめて「プラチナえるぼし」として認定されるからである。財団のように中小企業は人手や資金に限りがあり、女性の活躍を進めたい気持ちがあっても、具体的な進め方がわからず、制度づくりや環境整備が難しいこともある。

そうした状況のなか認定された財団が、今後もますます女性の就業継続など活躍を推進する組織経営を率先するとともに、多様な組織、とりわけ中小企業の男女共同参画のさらなる広がりに貢献していくことを期待したい。

—服部良子さん(クレオ大阪中央研究室長)